

令和7年度 学校自己評価システムシート(私立志学会高等学校)

目指す学校像	活気あふれる学校づくりを目指す
重点目標	1. 授業を工夫し、基礎・基本的な知識を身につける。 2. 安全・安心な学校づくりを推進する。 3. 開かれた学校づくりをすすめる。

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者調査実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (5 月 3 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方針	方策の評価指標	評価達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	・基礎・基本が身につけていない生徒、授業に関心のない生徒がいる。 ・不登校生徒で授業に出ることへの嫌悪感を持っている生徒がいる。 ・授業を受ける心構えができていない生徒がいる。	・学力の向上と授業改善	・個々の成績不振者への指導。 ・授業に落ち着いて真剣に受けられることができるような意識・環境づくりに努める。 ・不登校生徒の学校へのハードルを下げるため授業ではなく話を聞きながら意識改善を図る。	・クラス担任、教科担当等で繰り返し意識づくりをはかったか。 ・成績不振者の割合が減少したか。 ・不登校生徒が学校への嫌悪感を減少したか。	・補習提出の遅れがあった。 ・不登校生徒だった生徒が授業を受けられるようになった。 ・授業中集中を切らしてしまう生徒が数名いた。 ・レポートの提出について意識をして臨む生徒が増加した。	B ・補習の遅れがない様提出等の期限を徹底させる。 ・通信制の根幹であるレポートの重要性を理解させる。 ・不登校生徒はまず登校することが一つのハードル。指導を焦らないうこと。 ・基礎・基本を身につけている生徒とつけていない生徒の格差を埋めること。
2	・感染症発生時には、速やかに対応し、感染拡大の防止する。 ・自動車・原付及び自動二輪で通学する生徒がいる。 ・自転車で通学する生徒がいる。	・安全・安心な学校づくりの推進	・感染症に対し、理解を深め常時予防に努めるとともに、発生の際に迅速に対応する。 ・交通マナーの意識を高める。(安全運転、ヘルメット着用、二人乗り禁止等) ・自転車でも保険に入ることが義務可することなどを周知。	・感染症罹患数を年度推移により検証する。 ・クラス担任による交通マナーの呼びかけをし、交通安全を実現できたか。	・インフルエンザ等に罹った生徒数名いた。長期休み前や長期休み明けの集会で感染症予防などの周知を行った。 ・新しい生活様式として毎朝の体調確認を徹底した。 ・車・バイク通学者は保護者からの承認を徹底し、運転上のルールをしっかりと確認することにより、マナー向上の一歩となった。 ・自転車の保険・ヘルメット着用について周知を行った。	B ・インフルエンザなど有名な感染症以外のものについての理解を深めること。 ・感染症に罹った状態で無理な登校をしないよう指導していく。 ・自動車やバイクでの通学での交通ルールの徹底 ・自転車での交通ルールの徹底
3	・中学生・本校生・保護者へ教育情報を発信する必要がある。 ・学校施設の貸出。	・開かれた学校づくりへの取り組み	・学校からの情報発信 ・学校施設の貸出	・公式ホームページを活用し、各分掌、学年等からの情報を分かりやすく発信できたか。 ・学校施設の貸出を行っている情報を発信できたか。	・ホームページの「お知らせ」や公式Lineにより、月に数回程度学校の近況を発信していた。 ・学校施設の貸出について例年使用して頂いている方からの依頼はあるが、新規の方へ貸出ができていない。	B ・ホームページの「お知らせ」等を活用し、学校の行事やイベントの告知や行事以外の日常などを発信を続けていく。 ・学校施設の貸出に関して情報発信を強化する。

学 校 関 係 者 評 価
実施日 令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等